

読書週間がはじまります

第72回読書週間は、10月27日（土）から11月9日（金）で、今年の標語は、「ホッと一息 本と一息」です。

読書週間は、終戦まもない昭和22年「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」という決意のもと、出版社・書店、公共図書館や新聞・放送のマスコミ機関も加わって、第1回読書週間が開催されました。当初の期間は11月17日から11月23日までの1週間でしたが、翌年から10月27日～11月9日（文化の日を中心にした2週間）になり、やがてこの運動は全国に広がっていきました。

福岡市では、平成29年2月に「福岡市子ども読書活動推進計画（第3次）」を策定し、家庭・地域・学校・図書館を中心に、関係機関や団体と連携しながら、創意ある取り組みを推進しています。生涯学習課では、読書推進活動の一つとして新入生に先生方から推薦された図書を「新1年生へのおすすめ本リスト」*にして配布しています。

今年度、中学校に配布した「新1年生へのおすすめ本リスト」に記載した本を紹介しますので、読書週間に図書館などに配架してみたらどうでしょうか。

教科	書名	著者	出版社
国語	図書館の神様	瀬尾 まいこ	ちくま文庫
社会	15歳からの経済入門	河原 和之・泉 美智子	日経ビジネス人文庫
数学	10年後、君に仕事はあるのか？未来を生きるための「雇われる力」	藤原 和博	ダイヤモンド社
理科	好奇心をそだて考えるのが好きになる科学のふしぎな話365	日本科学未来館(監修)	ナツメ社
音楽	楽隊のうさぎ	中沢 けい	新潮文庫
美術	芸術と青春	岡本 太郎	知恵の森文庫
保健体育	頂点への道	錦織 圭・秋山 英宏	文藝春秋
技術	5人のプロに聞いた！一生モノの学ぶ技術・働く技術	阿部正浩・前川孝雄(編)	有斐閣
家庭	いのちをいただく	内田 美智子	西日本新聞社
英語	英会話・ぜったい・音読【入門編】	國弘正雄・久保野雅史・千田潤一	講談社インターナショナル

(30年度中学校配布 「新1年生へのおすすめ本リスト」)

※ 「新1年生へのおすすめ本リスト」

生涯学習課では、小学校や中学校の先生方から推薦された図書を紹介することで、新入生たちが学校での学習に興味を持ち、読書する本の幅を広げることにより、学ぶ力の向上と豊かな心の育成に資することを目的に、毎年、小学校、中学校に「新1年生へのおすすめ本リスト」を配布しています。このおすすめ本リストを作成するために、小学校、中学校の各教科の研究委員会や研究会に本を推薦していただいています。小・中学校に配布した「新1年生へのおすすめ本リスト」は、教育委員会ホームページ（生涯学習→子どもの読者活動の推進→おすすめ絵本・本の紹介）に掲載しています。



読書週間では、子どもたちの読書量を増やすとともに、物語や小説だけでなく、詩や伝記など他の分野にも広がるような取組みをしてみるのもよいと思います。また、市の総合図書館で開催された読書リーダー養成講座を受講した子どもたちには、ぜひ、講座で学んだ読み聞かせやPOPの作成ができるような取組みをお願いします。



今年、新たに紹介する取組み

① 本のおみくじ

本の紹介が簡単に書かれたくじを来館した人にひいてもらい、ひいた本を借りて読むようにします。低学年用と高学年用と分けておみくじをつくっておけば、なおいいと思います。

② 福岡県出身の作家コーナーの設置

作家が生まれた地域に作家名を書き入れた福岡県地図と一緒に福岡県出身の作品を集めたコーナーをつくります。コーナーには、白石一文氏、乙一氏、畑正憲氏、古処誠二氏などの本を表紙が見えるように配架してはどうでしょうか。

③ 読みたい本コンクール

子どもたちが好きそうな本を選んで並べて置き、一番好きな本を選んで投票してもらいます。一番になった本に投票してくれた子どもには、しおりなどのプレゼントを渡したり、一番になった本を放送で紹介し、展示したりします。

④ 読書ゆうびん

今まで読んだ本で心に残った本や紹介したい本を、はがきより少し大きめの厚紙に書名や簡単な感想などを書いて校内に設置する郵便ポスト（生活科などで使ったポスト）に投函します。投函されたはがきは掲示板に掲示します。

☆ 読書量を増やすことにつながりやすい取組み



⑤ スタンプカードの活用

専用のスタンプカードを準備します。貸出図書の返却の際、本一冊につきスタンプ一個を押します。スタンプの個数に応じてしおりなどのプレゼントをもらえたり、借りられる本の冊数を増やしたりするなどの特典を与えます。集会などで表彰するのもよいでしょう。

⑥ 読書クイズ

A5ぐらいの紙に「本」にまつわるクイズを記入し、封筒に入れます。子どもたちに封筒を選ばせ、中に入っているクイズの答えを図書館の本で探して見つけます。

(クイズの例)

- ・物語の一節（子どもたちが親しんでいるもの）を記し，書名を答えてもらう。
「てがみを もらって，がまくんは とても よろこびました。」の一節は，「おてがみ」という話の最後の一節です。「ふたりは ともだち」という本には，「はるがきた」など5つの話があり，その中に「おてがみ」があります。
 - ・登場人物の名前を記し，その人物がでてくる書名を答えてもらう。
 - ・人気のある作家だが，子どもたちにはあまり知られていない作品の一節を記し，作者名を答えてもらう。
 - ・子どもが知っている本を記し，主人公が飼っている動物の名前を答えてもらう。
- 他にも，物語の内容に関する質問などいろいろ作れるのではないのでしょうか。
さらに，スタンプカードを準備して，正解者にはカードにスタンプを押印すると，クイズを解く楽しさが増すだろうと思います。

⑦ 先生方によるおすすめ本の紹介

先生方で子どもたちにすすめたい本を学校図書館で選び，所定のカードにおすすめのポイントを書きます（POPの感覚で）。そのカードを該当の本の表紙に添付し，図書館内に設けた特設コーナーに展示します。

※カードに先生の似顔絵や顔写真をそえると，子どもたちは一段とおすすめの本に興味を持つことと思います。

⑧ 先生方によるブックトークや読み聞かせ

先生方が各自のお気に入りの本について，本にまつわる思い出を話したり，読み聞かせをしたりします。

※どの先生が，どの部屋で，何の本を読むのか，レストランのように事前に読み聞かせのメニュー表を配布したり，学級に掲示したりすると，楽しみが増すと思います。

☆ 読書の幅を広げることもつながりやすい取組み

⑨ 給食時間中の放送の活用例（その1）・・・CDを活用した名作紹介の時間

著名な俳優が名作を朗読したCDが，福岡市総合図書館にあります。CDは，金子みすゞの詩や宮沢賢治の作品などいろいろあります。こうした音源を活用し，給食時間の放送で流します。



⑩ 給食時間中の放送の活用例（その2）・・・おすすめ本の紹介

図書委員や放送委員がおすすめの本を紹介します。

※おすすめ本の原稿については，図書委員，先生だけでなく，保護者や地域の方などに依頼してはどうでしょうか。

⑪ ビンゴカード

学年に応じたビンゴカードを1人1枚配布します。このビンゴカードには、国語の教科書に紹介されている本や読んで欲しい本、☆印を付けた学校司書のおすすめ本を載せ、読んだ本の欄に色を塗ります。それ以外の本を読んだ場合は、空欄に書名を書きます。ビンゴゲームのように、縦・横

・斜めに1列そろったら図書館に持ってきて、図書委員からしおりなどをもらいます。日頃子どもたちが手にすることの少ない詩、伝記などの本をビンゴカードに載せることで子どもたちが本を知り、読書の幅を広げることにつながると思います。

(例) ビンゴカード

わたしと小鳥と すずと	手塚治虫	☆精霊の守り人
ひとしずくの水 (写真絵本)		草野心平詩集 蛙のうた
杉原千畝物語	☆西風号の遭難	ファーブル 昆虫記1

☆ そのほかの取組み

⑫ ブックトーク・ビブリオバトル*

小学校の高学年や中学校・高校では、昼休みや放課後に大会を行ってみるのはどうでしょうか。また、取組みの様子や結果を図書館だよりなどで紹介してもよいでしょう。

※出場者がそれぞれ推薦する一冊を持ち寄り、その本のよさを5分程度で紹介し、その後、参加者がどの本が読みたくなったかを多数決で決める書評イベントです。知的書評合戦ともいわれます。京都大学の研究室から始まったといわれています。



⑬ POPコンクール

全校の児童・生徒に呼びかけ、POPカードを募集します。集まったPOPを展示して投票を行い、優秀作を決定します。POPの内容によって、キャッチコピー賞やイラスト賞などの賞を工夫することもできます。

⑭ 英語の本の読み聞かせ

外国語指導助手（ALT）にお願いして、読み聞かせをしてもらったらどうでしょうか。「はらぺこあおむし」「ぐりとぐら」「はれときどきぶた」などの本は、英語版も出版されています。



⑮ 展示会の実施

POPカードを書き、カードと本と一緒に図書館前廊下に展示したり、ぬり絵やしおりを書いたりして展示します。

11月生まれの文学者



古田 足日（ふるた たるひ）と「モグラ原っぱのなかまたち」

愛媛県川之江町（現四国中央市） 1927年11月29日生まれ 2014年没

小さい時の古田氏の家の中は、本だらけでした。小学校の低学年で兄が友だちから借りてきた「幼年クラブ」「少年倶楽部」を読むようになり、5年生で「なりけり」で終わるような「太平記」をはじめ、父の本棚からおもしろそうな本を乱読していました。

1945年大阪外事専門学校に入学後、中退して1949年早稲田大学文学部に編入しました。しかし、すぐに休学して故郷の愛媛県の山の中で代用教員をし、1年足らずで結核になり退職しました。1951年復学して早大童話会へ入会し、1953年早稲田大学を中退しました。

評論家だった古田氏が、「ぬすまれた町」以降、児童文学を書くようになったのは、今までの児童文学が古田氏の考えている児童文学と違っており、また、評論を書くより児童文学を書く方が原稿料が多く生活しやすかったからだそうです。

「モグラ原っぱのなかまたち」は、古田氏の娘やその友だち、飼犬、周りの大人などの実際にあった出来事をもとに、子どもたちの願いや空想を書いた作品です。

古田氏の作品が雑誌や新聞の連載後そのまま本になることが少ないのは、連載中書こうと予定したことを予定通り書ききれず、連載の終りの方にしわ寄せがいったため、本にする時に不十分だったところを書き直したり、加筆したりするからです。

古田氏の児童文学作品は、「宿題ひきうけ株式会社」（日本児童文学者協会賞受賞）、「おいしいのぼうけん」、「ロボット・カミイ」などがあります。



絲山 秋子（いとやま あきこ）本名西平 秋子（にしひら あきこ）と「沖で待つ」

東京都世田谷区 1966年11月22日生まれ

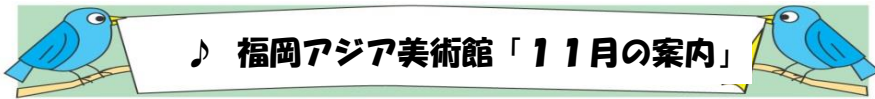
絲山氏は末っ子で、自宅から自転車でいける場所にいくつも区立図書館があり、小学生の頃は、1年に500冊くらい本を読み、読書帳もしっかり書いていました。中学生になると、「動物農場」「異邦人」などを読みましたが、大学では専攻が社会科学系だったので、文学はほとんど読みませんでした。早稲田大学政治経済学部卒業後、住宅設備機器メーカーに総合職として就職してからは、山に行ったり海に行ったりと、外で遊ぶのが楽しくほとんど読書をしませんでした。その後、福岡、名古屋、高崎などに赴任し、2001年に退職しました。

作家になりたいと思っていたがなかった絲山氏が作家になったきっかけは、会社に勤めていた時に精神疾患で入院して暇だったため、文章を書き始めたことでした。その後、退院して書いた「イツ・オンリー・トーク」が文学界新人賞をとり、作家デビューをしました。

芥川賞を受賞した「沖で待つ」は、絲山氏が新卒で赴任した福岡が舞台です。主人公や登場人物の言動、勤めていた会社で実際に起こったエピソードがたくさん書かれています。

絲山氏は、午前エッセイ、午後小説を書くことが習慣だそうです。自分の新刊が出た時には必ず本屋に何店か行き、どんな本が読まれているかなどを聞くそうです。

絲山氏の作品は、「袋小路の男」（川端康成文学賞受賞）、「海の仙人」（芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞）、「薄情」（谷崎潤一郎賞受賞）などがあります。



♪ 福岡アジア美術館「11月の案内」

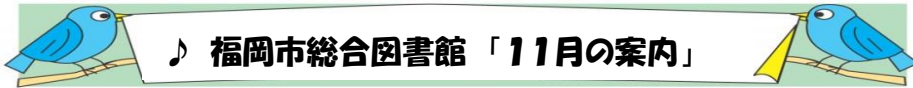


* アジアの絵本と紙芝居の読み聞かせ

11日(日), 13日(火), 25日(日), 27日(火)

・時間 11:30 ~ 12:00, 13:00 ~ 13:30

・場所 7階「キッズコーナー」(申し込み不要)



♪ 福岡市総合図書館「11月の案内」



* 毎月のおはなし会

3日(土), 4日(日), 10日(土), 11日(日)

17日(土), 18日(日), 24日(土), 25日(日)

・時間 土曜日: 3日, 10日, 17日

14:10 ~ 14:25 赤ちゃん向けおはなし会

14:30 ~ 14:50 幼児向けおはなし会

24日

14:30 ~ 15:00 幼児向けおはなし会

日曜日: 14:30 ~ 15:00 幼児向けおはなし会

15:15 ~ 15:45 小学生向けおはなし会

・場所 「こども図書館 おはなしの家」



□ 図書館員のひみつの本棚《No.150》

福岡市総合図書館 読書相談員の重村さやかさんが、昨年度に引き続き毎月素敵な本を紹介してくださる楽しいコーナーです。

今回の紹介する本は絵本です。この絵本の著者が、2011年の東日本大震災の被災地を何度も訪問した後、書かれた絵本です。この絵本が書かれた背景を知って絵本を読んだり、読み聞かせをしたりすると、日頃、当たり前と感じている風景や営みは、何事にも代えがたいものだということを感じることができるだろうと思います。

☆ 今月の本

『あさになったのでまどをあけますよ』

荒井 良二/作・絵 偕成社 2011年 1404円

☆ あとがき

秋の読書週間が始まります。今年の読書週間の標語は、「ホッと一息 本と一息」です。日頃、勉強や部活などの指導に一生懸命取り組んでいる先生方も、本を手に取り、ホッと一息されてはいかがでしょうか。ホッと一息できる絵本として、「うずらちゃんのかくれんぼ」※（福音館書店）「しゅくだい」（岩崎書店）「とりかえっこ」（ポプラ社）などがお薦めです。

糸山氏が書いた「沖で待つ」では、福岡市の天神地下駐車場や福岡空港など市内の地名がいろいろ出てきます。知っている地名が作品に登場すると、なにかその作品に親しみがわいてきます。

※「うずらちゃんのかくれんぼ」は、愛子内親王殿下がお気に入りの絵本としても有名です。

発 行： 福岡市教育委員会 生涯学習課

電 話： 0 9 2 - 7 1 1 - 4 6 5 5 F A X： 0 9 2 - 7 3 3 - 5 5 3 8

図書館員のひみつの本棚 第 150 回

今月は朝の読み聞かせにもおすすめの絵本です。

『あさになったのでまどをあけますよ』

荒井 良二／作・絵 偕成社 2011年 1404円

<お勧め年齢>

乳幼児-- 低学年☆ 中学年☆☆☆ 高学年☆☆☆ 中学生☆☆
高校-- 一般--

(☆が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

見開きのページにいろいろな場所の朝の景色が描かれています。

町の朝、山の朝、海の朝、晴れた朝、雨の朝。朝、窓を開けた時のすがすがしい気持ちが、絵から伝わってきます。

そして、短い、リズムカルな文章が、この世界で朝を迎える喜びを、私たちに伝えてくれます。

先日、5年生の朝の読み聞かせで読んだ際、ページをめくるごとに、聞いている子ども達の顔が晴れやかになっていきました。

偕成社のホームページにある紹介文によると、東日本大震災の後、著者が被災地の人々で行ったワークショップの旅を経て、描き上げられた絵本だそうです。

IBBY（国際児童図書評議会）が選定したバリアフリー児童図書にも選ばれています。

<子どもに手渡す時のポイント>

著者の絵の特徴である、カラフルな色彩の美しい絵がじっくりと見られるように、読み聞かせの際はページをゆっくりとめくってあげてください。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。

